

令和元年度 終了評価書

研究機関 : (株)NTTドコモ

研究開発課題 : IoT 共通基盤技術の確立・実証(課題Ⅲ 多様な IoT サービスに活用可能な IoT データ形式共通化・正規化・抽出技術の確立)

研究開発期間 : 平成 28 年度～ 30 年度

代表研究責任者 : 葛原 毅

■ 総合評価(5～1の5段階評価) : 評価 3

■ 総合評価点 : 18 点

(総論)

目標はクリアしており、実ビジネスを想定したユースケースに基づいて要件を抽出しながら研究を進めたことは評価できる。広く使ってもらおうという観点で、FIWARE などのプラットフォームをターゲットとして本機能を普及させる視点があると更に良かった。今後、国内にとどまらずグローバルな視点から、本技術の優位性、競争力をどのように位置付けていくのか、深く検討いただきたい。

(コメント)

- もう少しデータ標準化、正規化抽出についての広い視点を持ち、広く使えるものがほしい。
- 共通機能の普及として FIWARE などのプラットフォームを仮定してできると良かった。
- 特別に秀でた技術はないが、目標はクリアしている。
- どのようでも共通化はできるが、技術上の利点が示された。
- 実ビジネスを想定したユースケースに基づいて要件を抽出しながら研究を進めたことは評価できる。今後、国内にとどまらず、グローバルな視点から本技術の優位性、競争力をどのように位置付けていくのか、深く検討いただきたい。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

IoT 時代におけるデータ流通基盤として重要な技術であり、データ連携はこのようなプロジェクトがないとなかなか進まないだろう。交通分野においては MaaS などの動向も見ておく必要がある。

(コメント)

- IoT 時代におけるデータ流通基盤として重要な技術である。
- データ連携はこのようなプロジェクトがないとなかなかすすまないだろう。そのような意義があった。交通分野においては MaaS などの動向も見ておく必要がある。
- 最低限の目標はクリアしている。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

実証を重視し、研究の観点でのアプローチは少なかったが、実証から得られた知見を的確にまとめ、次に繋げて欲しい。

(コメント)

- 実証を重視するあまり研究の観点が十分ではなかった。
- 予算の 80%程度が実証費用であり、研究費用の割合は少なかった。
- 実証から得られる知見が重要である。実証から得られる知見を的確にまとめ、次につなげていただきたい。

- 開発したプラットフォームについて、もっと他の事業者に使ってもらい、その結果からフィードバックしていくとさらに良かった。

(3) 研究開発目標(アウトプット目標)の達成状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

目標は達成されている。4 種類のアプリケーションにおいて研究開発した機能を適用し、データ量を削減しつつサービスを提供できることを確認した。

(コメント)

- 4種類のアプリケーションにおいて研究開発した機能を用いて、品質を確保しつつサービスを提供できることを確認した。
- 目標は達成されている。
- 妥当である。

(4) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

実証が多くなされた点は評価でき、またスマートIoT推進フォーラム等の場を用いて周知や普及促進を図っている。査読付き論文や口頭発表はないが、標準化、方式の普及に向けた取組として、今後の研究発表等に期待する。

(コメント)

- スマートIoT 推進フォーラム等の場を用いて周知や普及促進を図っている。
- 標準化、方式の普及に向けた取り組みとして、今後の研究発表の際には、実証から得られた知見について、多様なIoT サービスへの活用に資する形で的確にまとめ、有用な発表をしてもらいたい。
- 査読付きの論文のみならず、口頭発表がなく、取組み内容が弱い。しかし、実証は多くなされていた点は評価できる。

(5) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた計画

(5～1の5段階評価) : 評価3

(総論)

実証実験で得られたデータは次に繋げられる見込みがあり、ビジネスとして応用への展開はできている。

(コメント)

- ビジネスとして応用への展開はできている。
- 実証実験で得られたデータは次につながれそう。
- 最新の標準化技術の動向も見ながら、将来的な成果展開を行ってもらいたい。